

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 小野
日 時	令和2年8月19日(水曜日)		開 議 午前 10 時 00 分 閉 議 午前 11 時 47 分
出席委員	◎並河 ○大塚 長澤 富谷 平本 三宅 小松 西口 齊藤議長		
理事者出席者	【環境市民部】由良部長 [環境政策課] 山内課長、綾野主幹、名倉環境保全係長 [環境クリーン推進課] 大西課長、吉見計画係長 【健康福祉部】河原部長 [健康増進課] 大西課長 中山副課長 大原健康管理係長 【こども未来部】こども未来部 [子育て支援課] 森岡課長 酒井こども政策係長		
事務局	山内事務局長、小野主任		
傍聴者	市民 2名	報道関係者 1名	議員1名(奥野副議長)

会 議 の 概 要

1 開 議 10:00

2 行政報告

[理事者入室] 環境市民部

(1) レジ袋提供禁止関連施策及びポイ捨てごみ対策について 10:03

<環境市民部長>

(あいさつ)

<環境政策課長>

(資料に基づき説明)

[質疑]

<三宅委員>

7月29日に行われたレジ袋の代替紙袋の説明会の中で、紙袋のコストが下がったと話があったが理由は。

<環境政策課長>

紙袋を調達する際、売れ残りがでないよう発注期限を設け調整したためである。

<三宅委員>

代替紙袋の共同購入と独自で購入する場合で、補助率が異なる理由は。

<環境政策課長>

基本的には共同購入事業を利用していただくことを前提に制度設計を行った。大きさやデザインが異なる独自で作成される紙袋についても希望に応えられるよう補助対応を行うことになったが、共同購入事業は事業者の要望の中でできた制度であ

るため、優位性を持たせられるよう補助率を設定した。

<三宅委員>

マイバッグの持参率が上がることで、紙袋の需要は減少していくとのことであったが、紙袋代は事業者の負担になるのではないか。

<環境政策課長>

消費者への説明会で、紙袋代を負担するのは消費者であると、一貫して説明してきた。事業者への説明会でもその旨を説明してきており、エコバッグの普及と合わせて情報発信を行っている。

<三宅委員>

マイバッグの持参について、口頭で説明するだけではなく、店頭に掲示して説明できるようなものを作成するべきであると思うがどうか。

<環境政策課長>

現時点でマイバッグ持参率86.8%というのは、消費者が買い物袋代を負担しなければならないという認識が広まったからであると考えている。

<西口委員>

代替紙袋の補助が終了する時点で、マイバッグ持参率はどれぐらいになると想定しているのか。

<環境市民部長>

希望ではあるが、95%ぐらいを目指している。

<西口委員>

紙袋の購入補助期間を延長する予定は。

<環境市民部長>

補助期間は1年と考えている。

<西口委員>

市外からの来訪者に対する広報はどのように考えているか。

<環境政策課長>

9月以降、亀岡市の玄関口であるJR等の各駅をはじめ、各所にポスターの掲示を考えている。また、紙袋にメッセージを入れ、亀岡市の取り組みを認知していただけるよう進めていきたいと思っている。

<長澤委員>

スーパーは、どれぐらい賛同してもらえる予定なのか。

<環境政策課長>

前向きな検討をいただいていると聞いている。ただし、現在はレジ袋を月9万枚程提供されており、紙袋をどれぐらい発注するか迷われている。

<三宅委員>

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業者は対策を行うために負担が増え、売り上げが激減していることから、新型コロナウイルス感染症が収束するまで条例施行のスケジュールを後ろ倒しにできないのか。

<環境市民部長>

今の段階では、当初の目標を目途に進めていきたいと思っている。新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の状況をみるなかで判断していくことになると考えている。

<平本委員>

河川漂着ごみモニタリング調査の調査結果を見るとプラごみの原因としては、レジ袋だけではなく、飲料ペットボトルやたばこの吸い殻、フィルターが多いことが読

み取れる。以前から駅前にごみ箱を設置することについて意見を申し上げているが、今後、環境先進都市としてどのように取り組まれるのか。

<環境政策課長>

環境先進都市として、まずはレジ袋を皮切りに、次はペットボトルの削減、マイボトルの持参を進めていきたいと考えており、合わせて環境教育に取り組んでいきたいと考えている。

<平本委員>

市販の飲料水を購入される方は多いが、自動販売機近辺に捨てる場所がない。これがポイ捨ての大きな要因であると思う。事業者にて負担させるわけにはいかないが、事業者の協力を得てペットボトルを回収することができるシステムを構築する必要があると思うがどうか。

<環境政策課長>

ペットボトルについては、環境クリーン推進課を中心にスーパーでの拠点回収等を行っており、そういった取組みの充実を図っていきたい。

<平本委員>

拠点回収に来られる方は、捨てるために行かれるので、モラル的に問題はないが、ペットボトルを持って歩きたくない方がポイ捨てされているのだと思う。エコウォーカーのデータを分析し、効果的な場所にごみ箱を設置するなど、事業者とも協力するなかでごみの回収を進めていただきたい。

<三宅委員>

前回の常任委員会のなかで、ごみ箱がないという話があったため、試験的に自分の店の前に燃やすごみのごみ箱を設置した。今は営業時間中に限っているが、それなりにごみが捨てられている。協力してもらえるところにごみ箱を置いてもらえば町中にごみ箱が増えると思う。市として依頼をし、ごみ箱と燃やすごみ、埋め立てごみの袋を渡せば協力してもらえと思う。そういったことも取組みとして検討していただきたい。

<環境市民部長>

駅にごみ箱を設置するため、9月議会に補正予算を計上している。商店の中には自発的に協力してもらえるところもあると思うが、協力してもらえればありがたいと思われるので、市民の方や事業者の意見を聞く中で慎重に検討を進めていきたい。

<西口委員>

去年から自動販売機の横にごみ箱がないと指摘してきたが、今は100%設置されているか。

<環境政策課長>

全件は把握できていない。多くは設置していただいているが、見る限りは全てではない。

<西口委員>

以前から設置者には協力をお願いしているので、その確認はしていただきたい。また、8月1日にプラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例が施行され、ごみの量は増えているか。

<環境クリーン推進課長>

分別の意識は高まっているように思う。年々プラスチック製品や容器包装プラスチックの量は増えてきていると思う。

<西口委員>

意識が高まってきているという評価も、分析したデータによって判断が変わるので、十分に検証していただきたい。

<長澤委員>

8月1日の清掃活動に参加したが、公道や商業施設との境にごみが多く捨てられており、そういった場所の清掃も課題だと思う。

<環境政策課長>

事業者と連携しながら、そういった課題に取り組んでいきたい。

<小松委員>

河川漂着ごみモニタリング調査を1週に1回、外部委託しているとのことであったが、頻繁に調査を行う目的は。

<環境政策課長>

月に4回調査を実施している。月ごとにごみの量のデータを取るが、月に1回であると誤差が生じる可能性があるため、月ごとにデータを比較するにあたり月4回行うのが概ね適当であると考えている。

<小松委員>

いつまで調査を行う予定か。

<環境政策課長>

今のところ期限はない、続けて経過を観察していきたい。

(2) 亀岡市埋め立てごみ中間処理事業について

10:48

<環境クリーン推進課長>

(資料に基づき説明)

[質疑]

<三宅委員>

作業場所は。

<環境クリーン推進課長>

エコトピア亀岡の一角に小屋(日除け)を作っており、その中で5~6人が作業している。

<富谷委員>

燃やすごみや埋め立てごみが混入している場合でも、少々のことであれば収集いただいていることもあると思う。市民にごみの分別の意識をもってもらうため、収集時には、ごみの分別を少し厳しくし、丁寧に分別を行わないとごみを収集してもらえないという意識をもっていただいてはどうか。

<環境クリーン推進課長>

不正な排出があった場合には、ごみ袋に警告シールを貼り、収集しないようにしているが、後始末は地元の役員や当番の方が行っている。そのため、厳しくすることが難しい面もあるが、ごみの分別については、SNS等を活用して積極的に広報していきたい。

<西口委員>

鹿児島県大崎町では、「ごみの焼却処分場や埋め立て処分場を造らない。」という目的のために、市民理解を得てごみの分別を徹底している。亀岡市においても、市民に理解を得られるようごみの分別について方針を示し、ごみ分別徹底の取り組みを

進めていただきたい。

<環境市民部長>

亀岡市では、ゼロエミッション計画として新たな埋立施設を造らないということを中心に前面に出して取り組みを進めており、第5次亀岡市総合計画の中でも目標としていく。ごみの分別や減量を念頭に置く中で最終的な目標を設定し、環境先進都市を目指していきたい。

<西口委員>

ゼロエミッション計画といった言葉は、市民に意味が伝わりにくいため、誰にとってもわかりやすい広報を行っていただきたい。

<環境市民部長>

わかりやすい表現で説明、広報していく。

<大塚副委員長>

プロポーザルで選定を行うにあたり重点項目とした内容は何か。

<環境クリーン推進課長>

亀岡市の方針に沿って、埋め立てごみをどれだけ減らせるかということが重要な部分であった。

<大塚副委員長>

結果は、検証していくか。

<環境クリーン推進課長>

毎月月末時点で、当初提案されていた資源化が確実に行われているか検証していく。

<大塚副委員長>

随意契約とした理由は。

<環境クリーン推進課長>

随意契約の前にプロポーザル方式で、選定委員会が選定した業者と契約としたもの。

<大塚副委員長>

契約期間は。

<環境クリーン推進課長>

令和2年8月1日から令和3年3月末までである。今回は、初めての事業であるため事業の評価、検証を行う必要があり単年度の契約としたが、単年度契約とすると、その都度、設備投資や業者との対応を行う必要があり、また市民のごみの出し方にも変化が現れてくると思うので、今後は長期的な契約も検討する必要があると考える。まずは、令和2年度内でどのような形になるか検証していきたい。

<並河委員長>

契約した企業共同体は市内業者か。

<環境クリーン推進課長>

すべて市内業者である。

[理事者退室] 環境市民部

[理事者入室] 健康福祉部

11:02

(3) 新型コロナウイルス感染症に係る対応状況について

<健康福祉部長>

(説明)

<健康増進課長>

(資料に基づき説明)

[質疑]

<平本委員>

全国的な話であるが、新型コロナウイルスに感染された方に対して誹謗中傷が多くあると聞いている。亀岡市のフォローアップ体制はどのようになっているか。

<健康増進課長>

現時点で誹謗中傷を受けたという話は聞いていないため、実際に対応はしていないが、相談窓口を設けている。

<平本委員>

新型コロナウイルスに感染された方が悪いわけではないので、住みづらくなる社会環境にならないよう努めていただきたい。

<西口委員>

私も、新型コロナウイルス感染者に対するひどい噂を聞いた。そういった事実があるということは認識していただきたい。

<健康福祉部長>

誹謗中傷がないよう、感染発表をする際には必ず人権に配慮するよう対応しているが、議員ご指摘のとおり、噂があるとのことであれば、より一層啓発に努めていきたい。

<小松委員>

他の自治体では店舗や介護施設でクラスターが発生しているが、亀岡市で同様にクラスターが発生した場合、京都府と合同で調査を行うのか。

<健康福祉部長>

南丹管内でも飲食店で15人が感染した事例があった。その際は亀岡市と京都府の合同チームによる調査を行った。今後も質問内容のようなことがあれば、同様の対応を行うことになると思っている。

<平本委員>

接待を伴う飲食店に対し、業務内容に関する告知や啓発、周知を行っているのか。

<健康増進課長>

各種業界団体等を通じ、国や京都府から感染防止マニュアルに基づいた対応策を講じるように啓発されている。亀岡市でも商工会議所と連携し各業界に向けた啓発を計画している。

<長澤委員>

新聞等では、新型コロナウイルス感染者の勤め先や感染場所等が記事になっているが、そういった情報は新聞社等の取材に応じる形で情報提供しているのか。

<健康増進課長>

亀岡市から答えていることはない。京都府本庁と所管の保健所が合同で報道発表されている。その後、それぞれの保健所に対して取材が行われているものと思っている。

<長澤委員>

先ほどあった、飲食店に対して京都府と合同調査を行ったことについても報道されていたが、これも京都府や保健所に対する取材によるものか。

<健康増進課長>

南丹管内でクラスターが発生した場所への調査、指導については、京都府南丹振興局が主体となって行われたもので、そちらから情報提供があったものである。

<長澤委員>

ガイドライン等に従って指導される場合、商工会議所等と連携し各業界に向けた啓発を行うという話であったが、商工会議所や商工団体等は経営改善のような視点からの相談や指導が多いと思うが、今回は経営改善と感染防止という両面から進めていく必要があると考える。

<健康福祉部長>

今回は、再発防止のための調査、指導を行ったところである。

(4) ロタウイルス感染症に係る定期予防接種の実施について

<健康増進課長>

(資料に基づき説明)

[質疑なし]

(5) 令和2年度高齢者インフルエンザ予防接種について

<健康増進課長>

(資料に基づき説明)

[質疑なし]

[理事者退室] 健康福祉部

[理事者入室] こども未来部

11:32

(6) ガレリアかめおか屋上庭園あそび環境整備事業について

<こども未来部長>

(説明)

<子育て支援課長>

(資料に基づき説明)

[質疑]

<平本委員>

コロナ禍でコミュニティが希薄化する中、この事業を通じ子育て世帯の孤立防止についてどのような対策を考えているか。

<子育て支援課長>

この事業を子育て世帯の孤立防止対策の入り口と考えており、この場所には子育て支援員やプレイングマネージャーの配置を考えており、そういった人材を活用する

ことで孤立防止に繋げていきたいと考えている。

<平本委員>

新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じつつ、この取り組みを進めていただきたい。

<小松委員>

この施設を整備する場所は。

<子育て支援課長>

エイジレスセンターの上、屋外を整備する。

<小松委員>

整備する屋外施設にも子育て支援員等を配置するのか。

<子育て支援員>

常時配置ということは考えていないが、エイジレスセンター屋内と屋外を一体として配置していきたい。

<長澤委員>

全市的な拠点となる施設整備と合わせて、各地域でのあそび場の整備も必要と思うがどうか。

<子育て支援課長>

各地域でのあそび場の整備を行う計画はないが、昨年度に実施したアンケート調査では、各地域で遊び場が不足していると意見をいただいている。そのニーズに対してどのように応えていくかが、今後の課題であると認識している。

<こども未来部長>

地域子育て支援拠点事業というカテゴリーの中に、子育て支援センターや千歳町にあるゆりかご広場、その他にも民間保育園を活用して、あそび場を提供する事業は既に行っている。その事業のPRと今回の事業を連携させることで、子育ての取り組みを展開させていきたい。

[理事者退室] こども未来部

～ 11:45

3 その他

<並河委員長>

次回の委員会は9月14日（月）午前10時00分から議案審査を行う。

散会 ～ 11:47